

2023
7



写真①展示室での活動の様子

特別展「日本近代洋画の巨匠 金山平三と同時代の画家たち」展関連 こどものイベント

「美術館からの招待状 金山平三ってだれやねん?!」

■開催日時：2023年7月16日(日)13:30~15:30

■参加者：こども8名、大人8名

■対象：小学生~中学生

■場所：レクチャールーム、企画展示室

■概要

展示室で金山さんのさまざまな作品を鑑賞し、それぞれどんな風に描いているのか気づいたことなどを発表し合い、金山さんがどういう人なのかを考えました。

■1 学芸員によるレクチャー

展示会担当の相良学芸員が金山さんは神戸市生まれで、当館は作品を特に多く持っていると紹介しました。神戸で生まれ、東京やヨーロッパで絵を学び、のちに山形県を拠点としたため地元神戸でも知らない人も多いそうです。今回の展示会では、金山さんが知っている画家の描いた作品と似た場所を題材にした作品や、人物の描き分け方、またいろいろなところへ行って見た景色を思い出しながら描いた風景画にも注目して欲しいとお話しました。



写真②レクチャーの様子

◇こどもの感想（※原文をそのまま紹介）

・どのように思って描いたのか、金山さんはどんな人なのか考えながら鑑賞することができました。

(中1)

・面白かった。ちなみに金山さんは冬が好きなのかなと思いました。

(小4)

◇保護者の感想

・あまり知らない画家でしたが、色々話を聞いたり、考えながら鑑賞できてよかったです。

・子ども達の新しい(新鮮な)視点を感じられて良かったです。

■2 鑑賞①

相良学芸員のお話に出た知人と似たところを描いた作品を見比べて、「ここが似ているね」「同じ場所を描いたのかなあ?」など、兄弟や親子で会話しながら見ていました。また、「さっと描いているようなものもある、そうでないものもある」など、気づいたことなどを教えてくれる人もいました。ひとつひとつの作品を丁寧に鑑賞する姿が印象的でした。



写真③ 鑑賞の様子



図①



図②

■3 鑑賞②

次に、2チームに分かれて2つのお題に挑戦しました。お題は、「図①は、ある絵の一部です。この絵はどこにあるでしょう?」見つけたら作品の前に集まって、描かれた人はどんな人物で何をしているところなのかなど、気づいたことなどを発表してもらいました。

続いて、「図②」が描かれた作品を探しました。すぐに見つけれられたようで、その花が描かれた作品の前でお話しました。花について「しおれている」「垂れている」と気づき、金山さんがどうしてこんな感じに描いているのか聞かされると「こんな風に描きたくてわざと枯れさせた」「花は生きているから、当たり前のことを描いた」など答えてくれました。また、展示会担当の飯尾学芸員は、「朝は咲いていて、夕方描いたのかも。時間の経過が描かれている」とお話しました。

風景画が展示されている部屋では、自分が気になる作品を見つけてもらいました。同じ作品を選んだ人もいて、お互いどんなところが気になったのか共有しました。それぞれの作品について、どこの風景を描いたのかなど相良学芸員が解説をしました。



写真④ 活動の様子

■4 ふりかえり

展示室での鑑賞の後、金山さんってどんな人なのか自分なりに考えたことを発表してもらいました。「風景の絵が多いので、季節を分かるように描く人」「タッチや色使いなど、いろいろな描き方をする人だと思った」「絵の上手な人、お花の作品を見て思った」「風景をよく見て、遠くのものをよく描いている」「お花の絵をたくさん描いているから、お花を描くのが好きな人」など、作品を見て気づいたことや感じたことから自分の言葉で伝えてくれました。

□展示会担当からのコメント

このたびは金山平三展こどものイベントにご参加いただき、ありがとうございました。参加された皆さんが、展示室内でそれぞれ熱心に作品の解説に耳を傾け、画家の創作の秘密に触れることができたのがとてもよかったです。おそらく皆さんは思い思いに好きな作品を展示室内で見つけられたのではないのでしょうか?

「金山平三」は、誰もが知っているという画家ではないかもしれないので、あえて「だれやねん?!」というイベント名にしてみました。それまで知らなかった画家を今回知ることができた、美術館がそのお手伝いを差し上げられたのではないかと考えています。また機会がありましたらぜひ美術館のこどものイベントにご参加ください。(相良学芸員)